

新小山市民病院ニュースレター Shin-oyama City Hospital News letter No.5

<http://www.hospital-oyama.jp/>

〒323-0028 栃木県小山市若木町1-1-5 ☎0285-21-3800 (代表)

病院長挨拶

独法化初年度の成果を新たな展開の土台に

平成 25 年度は、地方独立行政法人、新小山市民病院の初年度として、これを中期計画 4 年の「スタートダッシュの年」と位置づけ、診療、サービス、連携、経営の様々な面で、文字通り新しい病院づくりに職員一同励みました。その成果は、「単年度黒字達成」という、大幅な経営改善となって、はやくも現れました。小山市民病院の歴史上もっとも激動の時期に遭遇しつつも、本来の仕事として誠実な医療の実践を心がけ、なおかつ病院改革に意欲を燃やした職員各位に心から感謝と敬意を表したいと思います。同時に、この間、辛抱強く本院を全面的にご支援下さった小山地区医師会の会員諸先生に改めて深謝申し上げます。ありがとうございました。

さて、今年から、本院は遅ればせながら、診療報酬体系を出来高制から変更して DPC 対象病院に参入しました。2025 年問題を乗り切る為の病院機能の分化と特化、7:1 “高度急性期” 病床削減の医療政策の中で、今年度の本院の課題は、地域中核病院として一般～高度急性期病院の土台をつくりあげること、そして一部の病床に地域包括ケア病棟を導入して、急性期から回復・慢性期・在宅へと、いわゆるシームレスな患者の流れをつくりあげる (patient flow management) ことです。4 月の DPC 導入により、医療は標準化され、在院日数は短縮するなど、効率化の効果がはやくも現われています。また従来から設置している亜急性期病床 (40 床、地域包括ケア病棟へ移行予定) の稼働もあがっています。このシステムは、患者がコンスタントに本院に来てくねなければ、空きベッドを抱えるだけとなります。救急車搬送患者を最大限受け入れ、近隣医療機関からの多くの患者をご紹介頂き、本院に適切な患者について大学からの流れをつくることなどやるべきことを着実に実行しなければなりません。現在、おかげさまで紹介率や逆紹介率も上昇し、皆様をお願いしている「地域医療連携医療機関情報カード」の院内掲示板もほとんど埋められてきました。

新病院の開院頃までには、皆様にもっと頼られる存在に成長したいと考えています。今後とも、絶大なご支援を切にお願い申し上げます。

平成 26 年 6 月

新小山市民病院 理事長・病院長
島田和幸

主なトピックス

患者支援センターを新たに開設しました。

4 月の組織改編で、患者支援センターができました。

新たに、スムーズな入院の受け入れと退院支援・退院調整を効率よく行い、在宅復帰率アップと在院日数の短縮を図る入退院支援室と、従来通り地域医療機関の皆様にご協力頂きながら運営させていただいております医療連携相談室とで構成されています。

入退院支援室では、地域のケアマネジャーや施設・多医療機関の職員の皆様と連絡調整を密に行ない、患者様の退院支援・退院調整をスムーズに行なえるよう、入院早期より迅速かつ積極的に関わっていきたくております。まだ始まったばかりで不慣れな点多々ございますが、円滑な運営を目指し日々努力していく所存です。地域医療機関の皆様には、今後も一層の御指導・御鞭撻のほど、宜しく申し上げます。



新任医師からのご挨拶

☆4月1日より 14 名の新しい先生方が着任されました☆

この度、平成 26 年 4 月 1 日から腎臓内科部長（人工透析センター長兼任）として赴任しました、伊藤と申します。平成 8 年に広島大学を卒業後、自治医科大学附属病院で初期研修を受け、同大学の腎臓内科に入局し、大学院卒業後はカリフォルニア大学サンディエゴ校で主に腎発生についての研究を行っておりました。

帰国後は腎疾患の診断治療や透析療法を中心とした臨床経験を大学病院、芳賀赤十字病院などで積んで参りました。

糖尿病性腎症、慢性糸球体腎炎、腎硬化症などは慢性腎臓病（CKD）の主たる疾患で、早期に治療介入することで、腎機能増悪の予防はもとより、心血管合併症発生を軽減する可能性もあると考えられております。CKD の概念浸透以前から、開業医の先生方にはこれらの疾患を併せ持つ症例の診療に携わっていただき、また、必要に応じて当院にご紹介いただいております。常日頃より感謝しております。腎生検による組織診断、腎性貧血や骨ミネラル代謝異常の管理指導、CKD の急性増悪の予防指導、栄養指導など、専門医の観点より引き続き当院での診療を進めていきたいと思っております。

末期腎不全に至ってしまった症例については、血液透析、腹膜透析（PD）、腎移植の導入を大学病院や、他の医療機関と連携をとりながら行う所存です。本県は腹膜透析の症例数が依然少ない県ですので、適切な症例については PD ファーストとし、理想的な包括的腎不全治療を行いたいと考えております。今後ともご指導ご鞭撻の程、何卒宜しくお願い申し上げます

腎臓内科 部長
伊藤 千春



内分泌代謝科

副部長

永山 大二

平成 26 年 4 月から新小山市民病院に着任いたしました永山大二（ながやまだいじ）と申します。平成 14 年に東邦大学を卒業し、以後研修も含めて今まで、千葉県にある東邦大学医療センター佐倉病院というところに勤務しておりました。専門は糖尿病・内分泌・代謝学領域です。糖尿病診療のほか、高度肥満症診療、脂質代謝異常（特に高度高中性脂肪血症の病因解析）、動脈硬化・血管弾性能の評価などを主な研究テーマとして医師生活を過ごしてまいりました。

今や国民病である糖尿病などの生活習慣病は言うに及ばず、内分泌疾患も決して稀なものではありません。たとえば、甲状腺疾患は自己免疫抗体陽性者を含めれば約 20% の人が潜在的に有しており、また国内に 4000 万人いるといわれる高血圧患者の内 200~300 万人は原発性アルドステロン症であると推察されています。生活習慣病に対しては、食生活・運動習慣の是正指導とオーダーメイド的な薬物使用によって少しでも動脈硬化の進展を抑えることが、健康寿命の延長に寄与します。また、見過ごされがちな内分泌疾患のスクリーニングを適切に行っていくことで、早期診断・治療を介した病状・QOL の回復が見込めます。私たち内分泌代謝専門の医師は、これらスキルを駆使して地域住民の健康を維持し、元気に毎日を過ごせるように、精一杯努めてきたいと思っております。至らない点多々ございますが、何卒ご指導のほどよろしくお願いいたします。



平成 26 年 4 月より総合診療科医師として、そして新しく開設された地域医療教育センタースタッフとして 2 名のスタッフが着任しました。

総合診療科では患者様が経験する健康問題を幅広く診療することを心がけています。各専門科の医師が多く揃っている当院における我々の位置付けとしましては、複数の健康問題などのため解決が困難な患者様、診断がつかず紹介先を決めにくい患者様などの病診連携の窓口としてお役に立てればと考えています。

地域医療教育センターは、大学病院だけでは診る機会が少ない幅広い健康問題について学び、地域の中で展開される医療を経験する場を提供することを目的として設立されました。本年度より自治医科大学医学部 4 年生の外来診察実習を院内で開始致します。当科外来患者様には学生実習へのご協力をお願いすることもございます。医師会の先生方におかれましては、当院に患者様をご紹介いただく際に患者様に一言お話いただければ幸いです。

将来は学生だけでなく、新小山市民病院を核とした後期研修プログラムの策定も検討しています。

小山の地域で行う医学生や若手医師の教育に是非ご協力下さい。

内科・総合診療科

右：副部長

熊田 真樹

左：副部長

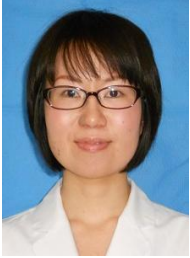
小松 憲一





小児科医師

山崎 雅世



4月から新小山市市民病院でお世話になっています。
自治医大小児科で小児科後期研修を終え、小児科専門医を取得し、
現在に至ります。

まだまだ未熟であり、4月からこの2か月でも多くのことを学んだと思います。
先生方には、平素からたくさん子ども達を診療いただいています。ご紹介いただいた際には、
少しでも力添えができるよう、努力を続けたいと思います。また、内分泌外来を始める運びに
なり、既に数人の子供達をご紹介いただきました。
自宅から近く通院しやすい外来として、少しずつ進めていきたいと思っています。
これから、どうぞ宜しくお願い致します。

整形外科 部長

東 高弘

平成26年4月1日より新小山市市民病院の整形外科に赴任しました東 高弘
(ひがし たかひろ)と申します。10年以上栃木に住んでいますが、新小山市民
病院は今まで場所は知っていたのですが、一度も足を踏み入れたことのない
病院で、戸惑いながらのスタートとなりました。

ただでさえ、忙しそうな整形外科を田中先生と二人で切り盛りしていかなば
ならないのは多少不安もありますが、アラフォーおじさん二人で力を合わせて盛り上げていき
たいと思います。

紹介に関しては、出来るだけ要望にお応えできるように脊椎、関節外科、外傷など幅広く扱っ
ていきたいと思っています。

医師会の先生方におかれましては、これからご指導・ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。



呼吸器内科

副部長

鈴木 恵理



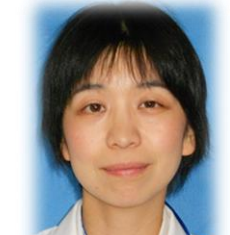
消化器内科医師

宮澤 巧



循環器内科医師

渡辺 貴裕



小児科 医師

亀田 聡子



外科 副部長

兼田 裕司



外科 医師

本間 祐子



泌尿器科副部長

夏井 信輔



麻酔科 医師

半田 裕子

ご迷惑をお掛けする事も多々あるかと存じますが、誠心誠意対応させていただく所存でござい
ます。今後とも、ご指導・ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます

※ 今回スペースの関係上、名前のみの先生もおります。次回より各科の紹介などで
改めてご紹介させていただきたいと思っておりますので、よろしくお願い致します。





救急の現状報告

(1) 休日夜間急患センターからの紹介状況



休日夜間急患センターからの紹介状況

急患センターから紹介が必要な患者は、遠い大学病院や他院にご紹介になる前に是非一度同一敷地内にある当院にご連絡くださるようお願いしてきましたが、その結果が右表のように現われています。

胸痛（心疾患疑い）、脳卒中疑い、急性腹症（消化器疾患）につきましては、特に積極的な受け入れを行なっております。

小児科疾患につきましても、平日の午後8時前後なら、是非一度ご連絡下さい。

小児科医が在院しておれば（土日は日直あり）受け入れ可能です。

平成25年度小山地区夜間休日急患センター他院への紹介件数（広域調べ）

紹介先	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	前年同期	増減比
新小山市市民病院	21	28	26	34	39	37	24	23	33	28	14	33	340	277	23%
自治医大病院	16	11	8	12	11	16	11	13	12	18	7	11	146	131	11%
獨協医大病院	2	2	0	0	1	0	1	1	0	0	1	0	8	6	33%
その他	7	4	5	6	6	7	1	7	5	8	0	5	61	43	42%
計	46	45	39	52	57	60	37	44	50	54	22	49	555	457	21%

平成24年度小山地区夜間休日急患センター他院への紹介件数（広域調べ）

紹介先	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
小山市市民病院	14	40	11	17	15	20	14	24	32	23	37	30	277
自治医大病院	8	17	7	13	11	10	8	11	14	14	5	13	131
獨協医大病院	1	0	0	0	0	0	1	1	3	0	0	0	6
その他	5	3	1	2	4	9	0	3	3	4	0	9	43
計	28	60	19	32	30	39	23	39	52	41	42	52	457

(2) 紹介・逆紹介の推移データ

紹介率・逆紹介率

（平成25年度の実績と平成26年度の目標）

小山地区医師会をはじめ、近隣医療機関の先生方には、地域医療連携に関して多大なご理解とご支援を賜り、感謝申し上げます。

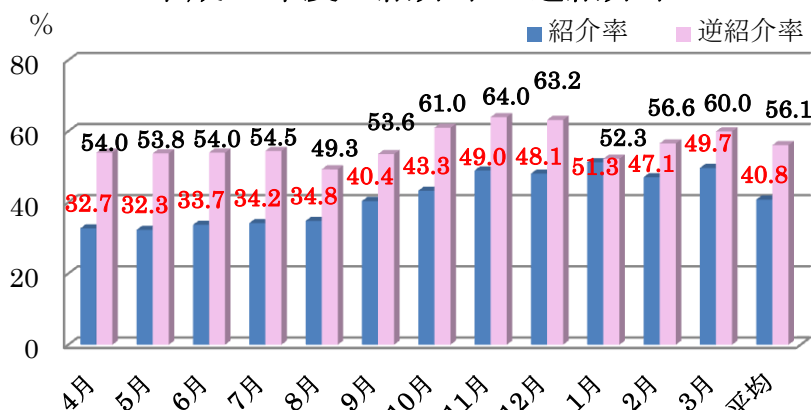
当院では、平成25年10月より、「逆紹介を積極的に行おう」という病院の方針で様々な取り組みをしてきました。まず、医師への説明、ポスター掲示とパンフレット配布による患者への説明、患者相談窓口の開設によるかかりつけ医や逆紹介先の相談、連携医療機関の情報コーナー開設による医院やクリニックの紹介など。

また、地域医療連携協力施設の承諾が得られた医療機関に「認定証」を発行し、許可が得られしだい情報カードを掲示するようにしました。現在、約90か所の情報カードを掲示しており、患者さんに大変喜ばれています。

平成25年度の紹介率、逆紹介率については、上半期に比べ下半期はわずかですが共に上昇しました。今年度に入り、4月の紹介率は55.4%、逆紹介率は62.9%となりました。今年度の目標値は、紹介率50%以上・逆紹介率70%以上です。地域医療支援病院を目指して、まだまだ努力をしなければなりません。地域の先生方からご紹介を受けた患者さんは、病状が落ち着きしだい、紹介元の先生方に、また、かかりつけ医を持たない患者さんは、合意のもと、お近くの医療機関に逆紹介していきます。地域の先生方には、入院や検査等が必要な患者さんは、是非当院にご紹介いただき、これまで以上に、地域医療連携を強化していきたいと思っています。今後ともご支援よろしくお願いいたします。

新小山市市民病院 患者支援センター 医療連携相談室 山中 涼子

平成25年度 紹介率・逆紹介率



医療連携相談室（受付時間 平日8:30～17:15）

医療連携に関する業務

- ① 紹介患者さんに関する事務
- ② 地域の医療機関からの紹介患者さんの診察や検査予約の受付
- ③ 地域医療機関訪問
- ④ 「新小山市市民病院診療科案内」などの作成と発送

患者さん・御家族に関する相談業務

- ① 適切な医療機関や福祉施設などの紹介
- ② 在宅医療や訪問看護に向けての調整
- ③ 医療費などの経済的問題の相談
- ④ 介護保険や身体障害者手帳などの制度の紹介や利用の相談 など

